

年頭所感2011

公益社団法人
北海道臨床工学技士会
会長 室橋 高男

新年明けましておめでとうございます。2011年の新春を迎え、本年が会員皆様にとっても、当会にとっても良い年になることをお祈り申し上げます。また、日頃より当会の活動に対しまして格別のご指導、ご支援を賜っております関係各位の皆さまに深く感謝申し上げます。

さて、予てより「医療の安全を確保することは我々臨床工学技士に課せられた使命のひとつである」と謳わせていただいておりますが、医療全体の中で医療機器の安全管理が求められ、かつ「医療機関等における医療機器の立会いに関する基準」も制定され約3年が経過する中で、多くの臨床工学技士が対応し、それに伴って我々臨床工学技士の責任が益々重みを増してきております。

昨年は、組織として有意義に活動できる環境を整えて行くために、北海道臨床工学技士会の新公益法人化へ向けた公益事業を計画、実施に向けて進めて参りました。その活動の中、当会事業の活動内容および支出の約80パーセントが公益目的事業と認められ、昨年11月1日に全国の臨床工学技士会においては初の公益社団法人に移行することができました。

今年は更なる公益事業を展開し、臨床工学技士のアピールをする中で認知度を高めつつ、「個々のスキルアップと技術の研鑽」を重点に、教育システムの構築を充実していきたいと思っております。また、道内に点在する臨床工学技士地方会との結束力を高めるために、継続して各地方会行事へ参加し、交流を深め、北海道の臨床工学技士が一枚岩となり、国や自治体へアピールできるよう組織力を高めるべく努力していく所存であります。

臨床工学技士が抱える様々な問題を克服するためには、当会への入会率を向上させ、組織を拡大することが重要であり、未入会の方々へ入会のはたらき掛けを行うと共に魅力ある組織になるよう、当会の研修会・セミナー等をさらに充実させていきたいと思っております。

会長としては、まだまだ力不足ですが、2期目を預かる身として、会員の皆様のご協力を得ながら、自分たちがその第一歩を踏み出すという確固とした信念を持ち、自分の職業に希望と誇りが持てるよう邁進する所存でございます。

今後、臨床工学技士の職能団体として公に訴えていかなければならない課題が山積みではありますが、今後も皆様の一層のご支援、ご協力をお願いし、今年が会員各位にとりまして益々のご健勝の年でありますことをお祈り申し上げます。